

防災とベース・レジストリ



2021-04-21

内閣官房IT総合戦略室

ベース・レジストリとはなにか

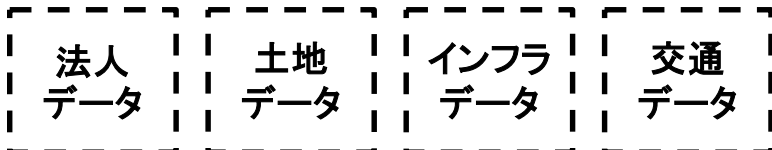
- 「ベース・レジストリとは、公的機関等で登録・公開され、様々な場面で参照される、人、法人、土地、建物、資格等の社会の基本データ」であり、正確性や最新性が確保された社会の基幹となるデータベース。日本では台帳等が相当する場合が多い。(オープンとクローズのデータが有リアクセス制御される)
- 全ての社会活動の土台であり、デジタル社会における必須の環境である。
- AIやドローン等の最新のデジタルテクノロジーを活用する基盤としても重要である。

ベース・レジストリの整備が遅れている国・都市

新ビジネスのスタートアップコストが大きい
サービスレベルが向上しない

データ収集で
コストと時間を浪費

実証できても
持続できない



データが、低品質であったり、利用制限されている場合がある。



人や企業、投資は、
より魅力的な場所
へ移動

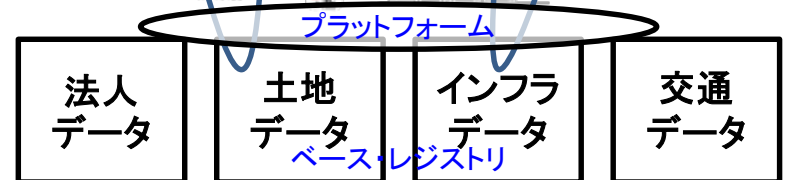
ベース・レジストリが整備済みの国・都市

すぐに新ビジネスを開始できる

暮らしやすい

オープン
データ

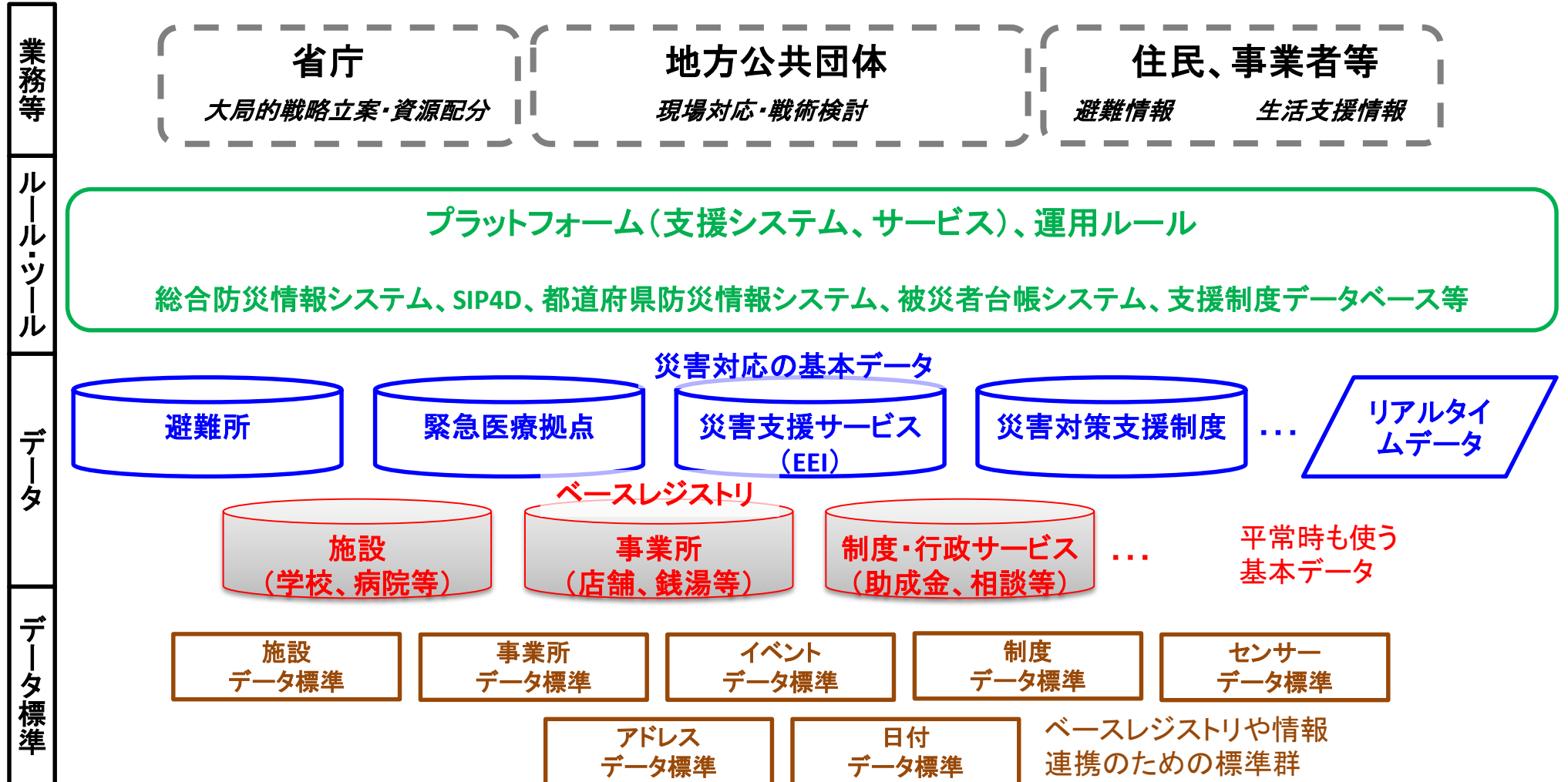
+ 民間データ



データは最新かつ正確で自由に使える。また、連携している。

防災でのベース・レジストリの位置づけ

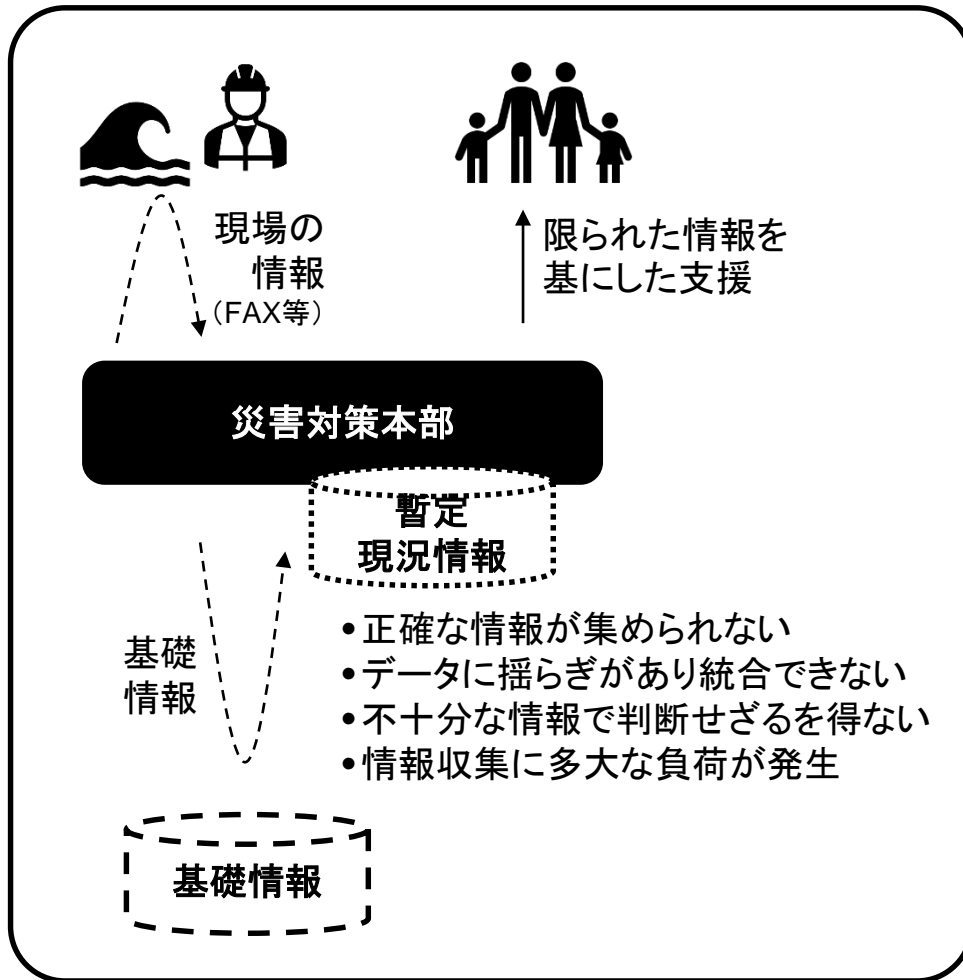
- 平時から社会の基盤情報を整備し、災害時に迅速に活用できる環境を提供する必要がある。



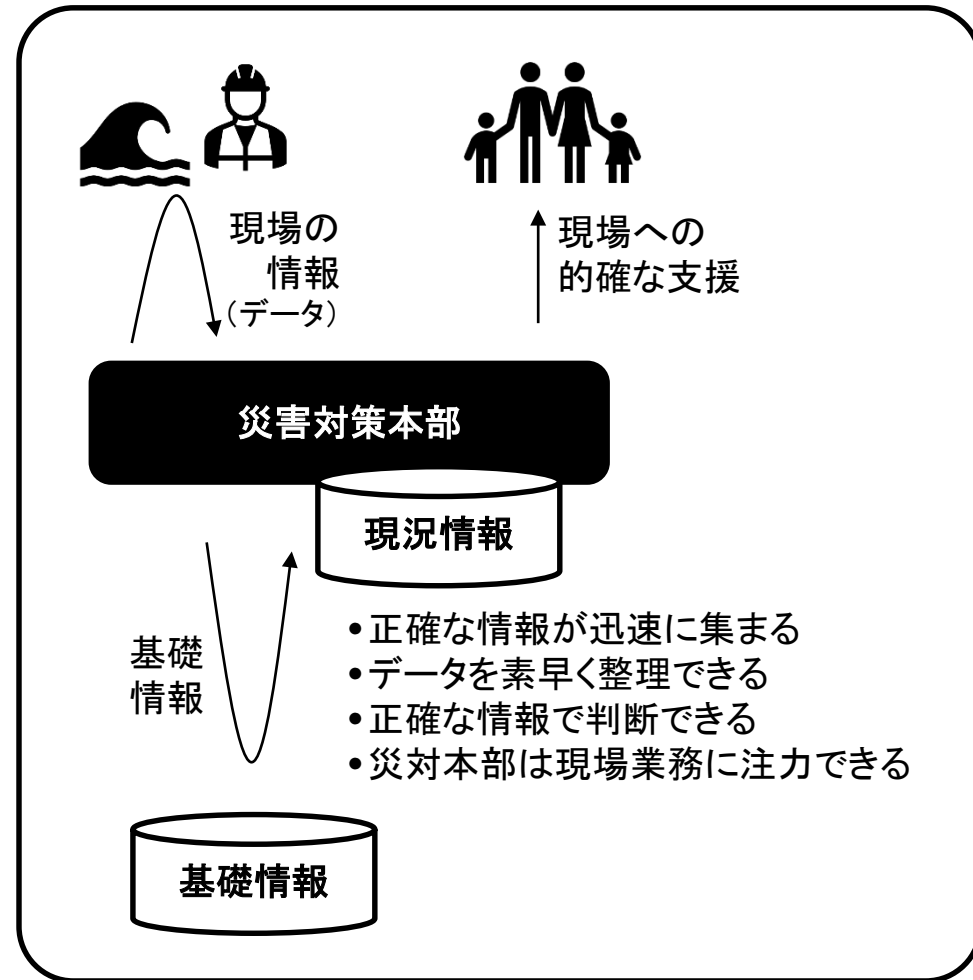
防災場面での活用イメージ

- 激務の災害現場を支えるデータの流を実現する必要がある。

現在



将来



実現するには、基礎情報であるベース・レジストリの整備とデータの標準化が重要

スケジュール

- 社会的、経済的効果や実現可能性などを考慮し、順次整備を行っていく。2025年までに環境を整備し、2030年までに整備していく。

具体的なアプローチ

2021年夏まで

- 主要なデータ標準の整備
- 品質管理フレームワークの整備

2022年3月まで(予定)

- アドレス情報、事業所情報の実現性調査とプロトタイプ実施
- イベント情報や公共施設等のデータ整備、プロトタイプ実施
- レジストリ・カタログ、コード・カタログの整備
- 支援制度データベースの整備

参考：先進各国のベース・レジストリの対象

■ 個人、法人、土地、不動産、自動車、自動車を、ベースレジストリにする国が多い。

	個人	外国人	法人	事業場 ※3	土地	不動産	住所	地図等	地下	道路	水と気候	自動車	運転免許	資格免許	法律	判例	収入・税	施設	政府機関	学校	病院	刑務所	学生	労働者	公文書	年金	犯罪歴	物品	医薬品	有害危険物	営業許可	
EC					○										○	○																
デンマーク	○		○		○	○	○	○		○	○																					
オランダ	○	○	○		○	○	○	○	○			○					○															
チェコ	○		○			○	○	○							○																	
スロバキア	○		○		○	○	○					○					○						○	○	○	○	○					
エストニア	○		○		○							○	○																			
英国	○		○		○	○	○					○							○	○		○										
米国	※1	○		○			※2					○	○	○				○											○	○	○	
韓国	○		○		○	○	○																									
中国	○		○		○			○																								○
シンガポール	○		○		○	○		○				○								○												
インド	○		○		○	○						○	○				○			○	○											

※1:米国はSSN

※2:米国はNAD

※3:事業所は法人に含まれる場合が多い

■ 公開範囲などはデータベース毎に異なる。